

兵庫県
保険医協会

西宮 支部ニュース

No. 365
2023・1・25

発行

連絡先

〒662-0832

兵庫県保険医協会 西宮・芦屋支部

兵庫県西宮市甲風園一―一五 法貴皮膚科内

兵庫県保険医協会 電話〇七八(三九三)一八〇一

第42回総会・40周年記念講演感想文

拡散する情報、ファクトチェックで真偽見極めて

西宮・芦屋支部は、10月8日(土)、西宮市立勤労会館にて、第42回総会・支部設立40周年記念市民公開講演会「混乱の時代を生きるためのファクトチェック」を開催。

第42回支部総会には6人が参加。半田伸夫支部長が会務報告、広川恵一副支部長が議長を務め、2021年度の支部活動のまとめと2022年度の方針などを盛り込んだ決議が全会一致で採択された。

講演会では支部世話人の坂尾将幸先生(西宮市・さかお内科消化器内科)が司会を務め、NPOメディア「Infact」編集長で、大阪芸術大学短期大学部客員教授の立岩陽一郎氏が講演を行った。会員・市民ら144人が参加した。西宮市・法貴皮膚科の法貴憲支部長の感想を紹介する。



医師・市民ら144人が参加し
講演後は多くの質問が寄せられた

離れて事実を確認」するため、立岩氏の元同僚で、実際に現地取材をしている人に確かめている。アメリカ軍がウクライナ軍に供与したミサイルは、ロシア軍の戦車1両に対して10基だという情報も、実際にCIAなどに確認したという。しかしこの情報は、日本では報道されていない。

トランプ政権時、トランプ大統領は北朝鮮の金正恩総書記に会いに行ったが、実際は自分が金正恩と同じく、父親の残した財産を受け継いだ立場であるというだけで、自分の興味で会いたかっただけだったという、面白い話も聞くことができた。

この他に我々の知らない色々な話を聞くことができ、あつという間の1時間半であった。立岩氏はさすが、テレビのコメンテーターを務めているだけに、聴衆を引き付ける話満載であった。

近頃は日本でも、新聞やTVなどの報道機関も「ファクトチェック」を意識しているという。その組織の規模は、まだまだ欧米には追い付いていないようだが、これからも益々「Infact」に期待したいものである。

【西宮市・法貴皮膚科 法貴憲】

西宮・芦屋支部の設立40周年記念として、3年ぶりとなる市民公開講座にNPOメディア「Infact」編集長・立岩陽一郎氏を招き、「混乱の時代を生きるためのファクトチェック」を講演してもらった。立岩氏は、1991年NHKに入局し、東京社会部、テヘラン特派員などを歴任し、その後は大阪・報道・司法キャップや東京国際放送局でのニュースデスクを経験して、2017年にフリーランスとなつて上述のNPO法人を立ち上げて、現在TVでのコメンテーターや総合解説で活躍中。

と自民党との繋がりなど、正に混乱の1年であった。氏が立ち上げた「Infact」とは、報道機関による情報や、国会答弁が事実かどうかなどをチェックする目的で設立された。立岩氏がこのNPO法人を立ち上げたきっかけは、アメリカへの留学時、すでに欧米で「ファクトチェック」が盛んに行われていたことに、触発されたからだとのことであった。



支部総会では新型コロナ禍でも少しずつ再開された支部活動について
報告・討議がなされた



立岩氏が事実を見極める
難しさを語った

「ファクトチェック」とは、①事実の確認、②根拠の明示、③立ち位置で判断しない・党派性を持たない、④政治的な道具ではない、⑤フェイクニュース撲滅の道具ではないという5項目を満たすものである。例えば、岸田首相のロシアによるサハリン2の件での「戦争も辞さない。徹底的にやる」とか、自民党・石破茂元幹事長の発した「イギリスでは女王の国葬も議会で決議されている」といった発言を、「Infact」では自民党本部や挙句はイギリスにまで、メールやFAXでの回答を得て、チェックしているという。またウクライナ情勢に関しては、「立ち位置を

西宮・芦屋支部は、12月29日(木)にオンラインでの忘年会を開催。支部の世話人ら4人と、支部「リスクマネジメント研究会」などで親睦のある鶴飼万貴子弁護士が参加し、参加者が今年一年を振り返った。

司会は今年も西宮市 伊賀内科・循環器科の伊賀幹二副支部長が務め、飼われている愛犬を画面に登場させるなど、オンラインならではの交流もあった。



今年飼い始めた犬を見せる司会の伊賀先生(右中段)

支部オンライン忘年会
オンラインならではの交流も

追悼 大森公一先生を偲んで

西宮・芦屋支部・支部長 法貴 憲



2022年10月28日、西宮・芦屋支部前支部長・大森公一先生が亡くなられた。1975年に協会の評議員となられて以降、1991年からは理事を歴任され、1989年からは前任の御幡益司先生から引き継いで第3代支部長に就任された。

大森 公一 先生(享年94歳)

1928年生まれ。1954年神戸医科大学卒。1969年2月に開業し、1969年10月に協会入会、1981年西宮・芦屋支部設立から世話人を務め、1989年~2013年西宮・芦屋支部第3代支部長。協会理事・評議員を務める

その後の24年間にわたる支部長としての大森先生の功績はこの上なく大きいもので、その間支部では総会をはじめ、支部忘年会、新規開業医懇談会、クリスマスパーティー、桜をみる会、健康と医療について語り合う会、英語で診療Medical Englishなど、多くのイベントを開催された。我々世話人が企画したものを否定されることはなく、喜んで参加された。

クリスマスパーティーではサンタさんに扮して子どもたちにプレゼントを配っておられた。また協会主催の、街頭での署名運動などにも積極的に参加された。

個人的には阪神・淡路大震災の際、名塩の仮設住宅に支部の医師数人で訪れたときに、運転しない私のためにわざわざ私の自宅まで何回か迎えに来ていただいたことが記憶に新しい。支部総会で講師に招いた、チベット人で日本在住のバイマーマンジンさんを推薦したのも大森先生で、彼女の話とその歌声は聴衆に大きなインパクトと感動を与えた。また「介護保険を良くする西宮市民の会」にもずっと参加されていて、その存在感を示されていた。

大森先生のあの温和な笑顔と言葉は多くの人々を包み込んだと思える。このコロナ禍で大森先生が企画されたイベントの多くが開催されていない現状だが、できるだけ続けていきたいと思っている。まもなく支部設立40周年記念誌が完成すると思う。大森先生に見ていただけなかったのは残念で仕方がない。

ここに大森先生の業績を披露して、大森先生の御霊に捧げたいと思う。 合掌。

世話人会だより

西宮・芦屋支部は12月23日(金)に西宮医療会館で世話人会を開催。6人が参加した。

- 【I. 最近の診療経験の交流】
- ・ 新型コロナ診療
- ・ 新型コロナワクチンについて、など

- 【II. 予定・企画】
- ① 支部オンライン忘年会(12・29)
- ② Medical English #57
- ③ リスクマネジメント研究会(6・17)
 - 「薬剤疫学と薬物療法リスクマネジメント」
 - 福島雅典京都大学名誉教授
 - 鶴飼万貴子弁護士
- ④ 健康と医療について語り合う会(西宮手話友の会)

- 【III. その他】
- ① NPO法人ストップ・ザ・アスベストの取り組み報告

*世話人会の日程は毎月第4金曜日です。次回は1月27日(金)に予定しております。支部についてのご意見や企画案などをお寄せください。

健康情報 テレホンサービス

0120-979-451 (24時間・通話料無料)



2月のテーマ

★3分間程度の開業医の手作りの健康・医療情報を放送しています。
★インターネットでもご覧いただけます。過去の放送分もキーワード検索できます。
URLは、http://www.hhk.jp/
左下のバナー「健康情報テレホンサービス」をクリック。

- 月曜日 小児のてんかん
- 火曜日 冷え性と漢方
- 水曜日 癩痕の治療
- 木曜日 大腸憩室炎について
- 金土日 大人のてんかん